

6191

五



開

支秘參發第一五號

八二號

易委

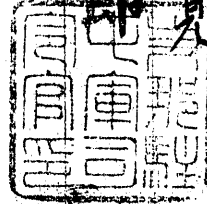
2.35

(大連三野納)

支那駐北軍編成及交代要領及同細則改正意見

昭和三年一月三十一日

支那駐北軍司令官 井龜太郎



陸軍大臣 白川義則殿

首題ノ件別紙ノ通上申ス

陸

軍

極秘

支那駐屯軍



第一 支那駐屯軍編成及交代要領改正意見
一 現有山砲二門ニ對スル人員（駁者ハ一門一名トス）及馬匹
（三頭）ヲ編成中ニ加ヘ山砲兵隊ヲ編成セラレ度
而シテ成シ得レハ好機ニ於テ之ヲ山砲兵一中隊ニ増編
セラレ度

理由

支那動乱ノ増大、軍出動範圍ノ擴張、支那軍裝備ノ
進歩、列國駐屯軍トノ權衡殊ニ之カ亭大思想ヲ有スル
支那側ニ及ホス影響ニ鑑ミ必要ト認ム

支那駐屯軍

二天津北京歩兵隊ニ機関銃隊各一隊ヲ増設セラレ度
編制ノ要旨 左記人員ニ對シ必要ノ幹部ヲ附スルモ
ノトス

天津歩兵隊(山海關ニ銃及茶
皇島ニ銃ヲ分派ス)ノ分

機関銃手 九名
十五銃ニ對シ一銃
六名宛

歩兵砲手 五二名
平射ニニ對シ一門
八名宛
曲射四ニ對シ一門
九名宛

計 一四二名

北京歩兵隊ノ分

機関銃手 二四名
四銃ニ對シ一銃
六名宛

歩兵砲手 一六名
平射ニニ對シ一門
八名宛

計 四〇名

右人員中ニハ馭者ヲ含有セシメアラス馭馬ハ不要ナリ

理由

軍現有機関銃ハ軍警備勤務上ノ骨幹ヲ爲スモノナルモ之カ要員ハ交代後軍ニ於テ速成スルモノニシテ素質充分ナラス殊ニ交代直後於ケル軍ノ戦闘力ニ関シテハ寒心スヘキモノアリ加之歩兵中隊ハ之カ爲多數ノ兵員ヲ控除セラレ實力ノ減耗大ナリ

歩兵砲ニ就キテモ同様ナリ而シテ現在平射砲ニ曲射砲四ヲ有スルモ北京ニ於テハ特ニ平射砲ヲ必要トシ天津ニモ平曲兩種ヲ緊要トスルヲ以テ現在ハ全ク二分シテ兩歩兵隊ニ配屬シアルモ別ニ平

射歩兵砲ニ増加ヲ申請シテ將來天津ニ平ニ
 曲四ノ一隊北京ニ平ニ一隊ヲ附スルヲ必要ト
 認メアリ

支那駐屯軍

一歩兵中隊中ニ銃工卒、縫工卒、靴工卒各二名、炊事専務卒、各三名ヲ増加セラレ度

理由

平時編制ノ改正ニ依リ内地部隊ニハ右人員ヲ増加セラタルヲ以テ軍歩兵中隊ニ對シテモ之ヲ増員セラレ度

炊事ハ從來厨夫ヲ使用シタルモ彼等ハ支那街ヨリ通勤シ流行病ヲ媒介スル虞大ナルヲ以テ目下兵卒ヲ使用シ居レリ此際専務卒ヲ以テ炊爨ヲ安實行セシメ度

支那駐屯軍

四附表第二號本部欄ニ曹長(書記)一計手一縫工
 長一靴工長一看護長一ヲ増加シ右縫靴工長ヲ
 シテ北京駐屯步兵隊ニ兼勤セシメラレ度
 但シ專業工卒ヲ派遣セラルル場合ハ縫靴工長
 ヲ削除セラルルモ差支ナシ

理由

軍兵力ノ増加ニ伴ヒ天津步兵隊本部ノ業務激增
 シ殊ニ山海關守備隊ノ業務ヲモ擔任セシメアルヲ以
 テ本部人員ノ増加ハ已ムヲ得サル處ナリ又縫靴
 工長ハ軍ニ派遣セラルル步兵中隊ニ工卒ヲ含マサル
 場合ニ於テハ本年交代期以後軍ニ於テ新ニ工卒
 ヲ養成スルヲ要スルヲ以テ必ス配屬セラレ度

支那駐屯軍

第二支那駐屯軍編成及交代要領細則改正意見

一、第三條第二項ヲ左ノ如ク改正セラレ度

但シ官衙學校等ニ分遣若クハ服務中ノ者及派遣後一年以内ニ進級入校等ノ為交代ヲ要スルノ顧慮アル者ハ派遣員中ニ加ヘサルモノトス

理由

官衙等ニ分遣中等ニテ現在隊ニ在ラサルモノヲ派遣セラレ又ハ進級入校疾病等ノ為派遣後一年以内ニ交代ヲ要スル者ヲ生スルハ勿論不利トスル所ナルモ陸軍大學校學生候補者豫定ノ者ノ如キハ歩兵隊附將校ニ在リテハ其初審ハ交代歸還直前ニ再審ハ當然内地ニ於テ受験スルコトナリ

何等軍ニ害ナク又通信部等ノ將校ニシテ派遣後一
年以上ヲ經過シ志願スルモノハ適時交代等ノ處置
ヲ執リ得ヘキノミナラス之等將校ヲ派遣セラルルハ軍
青年將校ノ素質ヲ向上シ得又無事ノ際ニ於テ
モ隊附將校ノ士氣ヲ緊張セシメ得ヘク尚斯ル有
為ノ將校ニ支那研究ノ機會ヲ與フルノ効果アリ
備考 陸軍大學校學生採用規則第一條及第五
條ニ依レハ當軍ヨリ學生候補者ヲ選拔スル
コトヲ認メ居レルモノト解セラル

支那駐屯軍

ニ第四條ヲ左ノ如ク改正セラレ度

派遣スヘキ下士ハ歩兵中隊ニ在リテハ猶一年以上其
 他ノ部隊ニ在リテハ猶二年以上現役ニ服スヘキモ
 ノニシテ派遣後進級等ノ爲一年以内ニ交代ヲ要
 スルノ顧慮ナキ者ナルヲ要ス

理由

歩兵中隊下士ニシテ一年以内ニ進級交代ヲ要スヘキ
 コト明ナルモノニシテ派遣セラレアルモノ少カラス其ノ都度
 歩兵隊ノ蒙ル不便大ナルモノアルヲ以テナリ

支那駐屯軍

三、第五條ニ左ノ一項ヲ加ヘラレ度シ

選兵ニ方リ特ニ兵卒ノ健康ニ顧慮スルヲ要ス

理由

昭和二年十月派遣セラレタル第九師團ノ部隊ハ至
急人選ノ已ムナキ狀況ナリシナランモ胸膜炎肺炎
ノ既往症ヲ有スルモノ及健康保護兵ヲ派遣セラレ歩
兵隊ニ於テ大ナル不便ヲ感シタル處ナリ此ノ外ニモ軍駐
屯地方ノ不健康地ナルコトヲ考慮シアラサルヤニ思
考セララルル例少カラサルニ付右ノ如ク規定セラレ度

支那駐屯軍

四、第五條、次ニ左ノ一條ヲ増設セラレ度

但シ既述第一、二ニ實現ノ場合ニ左記中機關銃
歩兵砲及山砲要員ニ関スル件ヲ除去スルモノトス

第六條 歩兵中隊ヲ派遣スル師團ハ機關銃歩

兵砲通信山砲及軍用鴿要員トシテ別
表ニ掲クル既修業兵ヲ派遣部隊ニ含
マシムルモノトス

當該師團長ハ派遣約一箇月前ニ於テ
右人員ヲ聯隊號ト共ニ支那駐屯軍司
令官ニ通報スルモノトス

理由

軍人前掲兵器器材ノ多数ヲ配屬セラレアルモ從來

九

右^{明文}ナキ為毎年派遣歩兵中隊ニ之等既修業兵ヲ有
 スルコト少ク為ニ歩兵隊交代直後事変突發セハ右
 兵器ノ能力ヲ發揮シ得サル虞アリ 尚軍歩兵隊ニ
 之等ノ教育ヲ實行スヘキ基幹人員ヲモ有セサルヲ
 以テ交代後所要人員ヲ教育スル為ニモ若干ノ既修
 業人員ヲ必要トス而シテ歩兵中隊派遣師團ノ事
 情ヲモ考察シ別表ハ其所要最小限ヲ示セルモノトス

別表

派遣步兵隊ニ編入スル特種課員修業者人員一覽表

課目	師團		將校	下士	兵卒	將校	下士	兵卒	摘要
	步兵	砲兵							
機關銃	三	四	(一)二七	二	二	(一)一八			天津北京山海關義皇島三分散セル二十二銃ノ要員トス
歩兵砲	一	三	(一)一二	一	二	(五)一〇			天津北京ニ在ル歩兵砲六門輕迫撃砲四門ニ對スル要員トス
通信	一	一	(一)一二	一	一	(四)八			天津北京ニ在ル五構成致ノ為基幹ト為ス人員トス
山砲	一	二	(一)一二						天津ニ在ル山砲二門ノ為ノ要員トス
軍用馬	一	一	九	一	一	六			天津北京義皇島ニ分置セル三百羽ノ管理使用ノ為ノ要員トス
備考	一 機關銃 歩兵砲 機關銃ニ在ル機本第一期ノ課目及對敵射ヲ安易施セシムルヲ要ス 二 山砲 機關銃ニ在ル機本第一期ノ課目及對敵射ヲ安易施セシムルヲ要ス 三 通信 及 軍用馬 機關銃ニ在ル機本第二期間ニ於テ約一箇月間ノ教育ヲ安易施スルヲ要ス 四 右表中 (一) ヲ以テ示セルハ上等兵見込ノ人員トス								

支那駐屯軍

五、既述第一、三、實現困難ナル場合ニハ前掲條項、次ニ左
 、一條ヲ増設セウレ度、

第七條 歩兵中隊ニハ銃工卒、縫工卒、靴工卒各ニ
 及炊事事務卒各三ヲ含マシムルモノトス

理由

第一、三實現困難ナル事情アラハ右人員ヲ中隊定員中
 ニ含有セシムヘキ旨細則中ニ明示セウレ度シ然ラサレハ
 中隊ハ之等必要ナル人員ヲ欠クニ至ル虞アリ

支那駐屯軍

六、第九條中 定員四分の一トアルヲ十分の一ト改メラレ
度

理由

軍歩兵中隊ハ各種特業等ノ人員ヲ包含スルヲ以テ
事實上中隊ノ銃數ハ著シク小ナルヲ免レス從ヒテ減員
既ニ定員ノ十分の一ニ達スレハ大ニ苦痛ヲ感ス北京駐屯
歩兵隊ノ如ク一中隊ノミ位置スル部隊ニ於テ殊ニ然
リトス

1585

七第十二條 獸醫材料ノ次ニ
蹄鐵^レ入^ラレ度
支那駐屯軍

支那駐屯軍

八第十八條中約十頁目トアルヲ約二十頁目ト改正セラレ
度

理由

派遣將校以下、任務ハ警備勤務ニ存スル要事實際上
平穩無事ノ場合ハ内地ニ於ケルト全様教育訓練ヲ
實行スルヲ要スルヲ以テ之カ参考書又ハ材料ヲ要シ
尚自己修養、爲ノ書籍、宿舍所要日用品、一部
ハ之ヲ携行セシムルヲ有利トスルヲ以テナリ

支那駐屯軍

九、第三十條中報告時期ヲ「毎年八月盡日迄」ト
改メラレ度

理由

軍ハ毎年六月ニ於テ殆ト其全部、十一月ニ於テ通信
員ノ交代ヲ實行スルヲ以テ何レヲ交代完了ノ時
機ト見做スヲ至當トスルヤ不分明ナリ 軍トシテハ
主力交代後ノ約ニヶ月以内ニ相當スル八月盡日迄
ト明示セラルルヲ以テ便トスルモノナリ

支那駐屯軍

十駐屯軍交代ニ関シ内地部隊ニ於テ要スル諸經費ハ支那駐屯部隊費ノ資金前渡手續ヲ本規定中ニ挿入セラレ度

理由

從來其手續明瞭ナラサル為往々軍事費ヨリ一時支辨シ再後整理替リ為セル等ノ事例アリ之カ豫防ヲ必要トス

支那駐屯軍

十一附表第一其一左ノ如ク増加支給相成度

- | | |
|----------------|------|
| 1. 十一年式平射砲 | 二 |
| 2. 同右十二年式榴彈六藥筒 | 五〇〇 |
| 3. 擲彈筒 | 六〇 |
| 4. 十年式曳火手榴彈 | 四〇〇〇 |
| 5. 擲彈筒用信號 | 五〇〇 |
| 6. 同右照明彈 | 四〇〇 |
| 7. 演習用手榴彈(著発) | 二五〇 |

理由

八軍ノ豫期スル戦闘ノ大部ハ市街戦ニシテ第一線ノ直前ニ火網ヲ編成スルヲ要スルト軍歩兵隊ノ素質並通信ニ関スル装備トニ鑑ミ使用輕便ナル平射歩

兵砲ノ増加ヲ希望ス

2. 軍ノ彈藥ノ補給必スシモ迅速確實ナルヲ豫期シ得サルト平射歩兵砲ニ期待スヘキ効果及其ノ霰射速度ノ關係ヲ顧慮シ同彈藥ノ増加ヲ希望ス

3. 市街戰ニ於ケル用途極メテ廣大ナル擲彈筒及所要彈藥ノ配給ヲ切望ス

4. 軍ノ現有スル手榴彈ハ著霰式ノモノノミニシテ之カ演習用手榴彈無キヲ以テ軍ノ現在靴下ニ砂ヲ充填シタルモノヲ投擲シテ本訓練ヲ實施シツツアルモ支那殊ニ列國軍環視ノ中ニ於テ斯ル演習ヲ實施スルハ適當ナラス著霰式手榴彈ヲ警備用トシテ使用セサルヘカラサル事情アリトセム該期間之カ投擲演習ニ要スル材料ノ交附ヲ望ム

支那駐屯軍

十二附表第一其二通信器材中左ノ如ク改正セラレ度

現 規 定	改 正 意 見
名 稱	數 量
大 絡 車	四
大 絡 車 架	四
大 絡 車 轉 把	四
大 絡 車 駐 螺 廻	四
大 絡 車 擔 棒	四 組
架 設 胴	四
撤 收 胴	四
調 線 桿	六
現 字 機	三 口 一 五
半數使用ノ見込ナキ付返納 被覆線絡車及線巻架ヲ返納シ上記ノ如ク増加セラレ度シ	
摘要	

十五年式一號無線電信機	一吉短波無線電信機	豫備品車積載品	電柱車 積載品共	通信車 積載品共	線 巻 架	被覆線絡車	レクランシエー電槽	携帶雄衡器	百人用電話交換器	五十人用電話交換器	六回用轉換器	横 刷 毛
〇	一	三	三	五	四	六	五	一	〇	二	四	三
一	二	二	〇	二	〇	〇	〇	二	一	一	六	一五
天津ニ増設セラレタルモノヲ 加ヘ数量シニトス		通信車返納ニ伴ヒ不要トナル		主與空機式トス (火花式全部返納シ度シ)		使用不使ニ付返納シ度シ		乾電池ヲ專用スルヲ以テ不要		近ク購買スルニ付五十人用 一不要トナル		

二分一吉短波送信機

ロ

一

送信機ノミトシ電源ハ十五年式
一端無線電信機ノモノヲ用フ

十三附表第一其三通信器材中左ノ如ク改正セラルレ度
支那駐屯軍

品目	區分	天津駐屯歩兵隊		北京駐屯歩兵隊	
		現規定	改正意見	現規定	改正意見
紐付小鐵線鉄	六	九	二	四	
大革胴乱	六	九	二	四	
電鈴式電話機	七	一〇	三	五	
中接續線	一四	二〇	六	一〇	
懷中電壓電流計	一	二	一	二	
中被覆線	七、〇〇〇米 (一四卷)	一、〇〇〇米 (二二卷)	三、〇〇〇米 (六卷)	五、〇〇〇米 (一〇卷)	
中被覆線接續器	六 (三組)	一〇 (五組)	二 (一組)	四 (二組)	
器具箱	一	二	一	二	
器具鑰下敷共	一	二	一		

二〇

調	中	中	線
線	線	絡	出
桿	卷	車	掛
三	三	一六	三
五	五	二二	五
一	一	七	一
二	二	一〇	二

理由

歩兵隊現有通信器材ハ事変ノ際ニ於テ緊要トスル最小限ナルニ拘ラス 平時教育用トシテモ之ヲ使用セサルヘカウサルヲ以テ其ノ衰損ハ急遽ナリ 派遣歩兵隊兵卒中通信修業兵ヲ有スルコト少キ現状ニ於テ殊ニ然リトス 斯クテハ一朝有事ノ時通信器材ニ欠陥ヲ生スル虞アルヲ以テ右ノ如ク増加セラレ度

十四附表第二ノ左ノ如ク改正セラレ度

支那駐屯軍

支那駐屯軍獸醫材料及蹄鐵定數表

部	材料	獸醫行本	獸醫携囊	馬療囊	携帶蹄鉄具	蹄鉄
駐屯軍司令部	甲	乙	一	一	一	各馬一裝
北京歩兵隊	乙	一	一	一	一	同

備考

一 本表ノ外獸醫材料及戰馬蹄鐵取扱規則第一表ニ準シ同表ノ定數以内ニ於テ必要ノ獸醫材料及蹄鉄ヲ備付クルコトヲ得

二 蹄鉄屬品トシテ各蹄鉄一裝ニ對シ蹄釘五十本、氷上蹄鉄ニアリテム一裝ニ付蹄鉄四十個、六裝ニ付螺旋廻一本ヲ附ス